



六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しを大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。そのプログラムの紹介や、山の旬の情報を通して、六甲山の魅力に迫ります。(今回は8月6日に掲載します)

青空主義

兵庫おでかけ情報

- イベント
- グルメ
- レジャー
- アート
- エンタメ

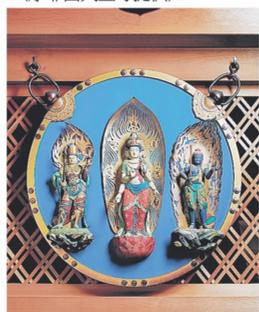
情報のご提供は FAX 078-360-5512 E-mail aozora@kobe-np.co.jp

根岸真理が案内 山の四季便り

摩耶山(神戸市灘区)は、646(大化2)年、天竺国(現在のインド)から渡来した高僧・法道仙人が開創したと伝えられる。日本屈指の古刹。唐・留学した弘法大師(空海)が、香木造りの仏摩耶夫人像を持ち帰って安置したことから、「摩耶山」の名がつけられた。「花の寺」としても高く、季節ごとにいろいろな花が見られ、7月上旬にはきれいな沙羅の花が咲く。この夏は33年に1度の秘仏開帳もある。夏の伝統行事を紹介しよう。

33年に1度の秘仏開帳 8月の天上寺、多彩な催し

旧暦七夕の頃にある恒例行事が「笹おひ七まつり」。今年は8月3日午後3時、掬星台でスタートする。無料参加できるワークショップなどの後、飾り付けた笹を背負って、掬星台から天上寺まで練り歩く。大勢の子どもたちも行列に加わり、「笹



8月恒例の四万六千日大祭も一風変わった。8月9日の境の時刻に本尊の観音さまに向かかって天から除災招福の星が下るといふ言い伝えによる祭りで、真夜中に開かれる。この日お参りすれば、四万六千日分の利益がいただけるそう。深夜にも関わらず多くの善男善女が集う。下界では、最も暑い盛りだが、



天上寺の夏を彩る「沙羅の花」。清楚(せいそ)な白い花ははかない一日花で、散り敷くさまにも風情がある

おいホーイホーイ! というかけ声とともに。笹と短冊は天上寺のほか、まやびユライン「星の駅」摩耶ケーブル駅、六甲ケーブル下駅、オテル・ド・摩耶、神戸市立自然の家、六甲山牧場、神戸市立森林植物園にも置き、自由に願い事を書くことができる。当日、笹は天上寺へ運ばれ、信侶によって願いの成就祈願が行われる。

六甲山観光は8月4、8日、三宮発着の直行バスによる天上寺の秘仏開帳をメインにした六甲・摩耶山上を巡るツアーを企画。六甲高山植物園での夏の花観賞、ガーデンテラスで

夏休み、チョウと仲良くなるろう 緑豊かな六甲山には昆虫「さびさん」の作品展、チョウも多く、中でもチョウは80種以上も生息している。上野など、子どもも大人も楽しめる。「チョウのまんが教室」「まごことチョウを体験しよう」のイベントも企画されている。13日(8月25日)月曜休館(祝日の場合は翌火曜)。入場無料。同センター ☎078・891・0616



風にはためくと、お経を唱えたと同じ功德があるといわれる五色旗「タルチョ」(摩耶山天上寺提供)



四万六千日大祭の部、四方に矢を射て邪気を払う(柴灯大護摩供(摩耶山天上寺提供))



涼しい夜の摩耶山上に幽玄な世界が出現する「四万六千日大祭」

◆食虫植物のひみつ展 7月13日～9月1日10～17時、六甲高山植物園(六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「高山植物園」)。はさみこむ、ねばりつける、ワナをしかけて待ちふせる…。さまざまな方法で虫を捕る「食虫植物」に焦点を当てた企画展＝写真。テーマは「山の上の植物たち」。六甲山に自生するモウセンゴケや高山に生えるムシトリスミレなどを中心に、植栽展示と解説パネルで紹介。ワークシートを使って学ぶ「観察の達人になろう～食虫植物編～」や期間中の土日・祝日14時から「観察の達人になろう 小学生向け特別園内ガイド」もある。また「食

虫植物の寄せ植え体験」は8月10日10時半、14時(各回90分)。小便小僧広場(雨天時は映像館)。講師は県立フラワーセンターの土居寛文さん。3000円(種苗、鉢、材料費込み)。各回先着20人。電話かホームページから申し込む。いずれも別途入園料620円、4歳～小学生310円が必要。六甲高山植物園 ☎078・891・1247 ◆六甲高山植物園の自然に触れる! 森のわくわくワークショップ 7月13日～9月1日の土日・祝日と8月13～15日10時半～12時、13～16時、六甲高山植物園・小便小僧広場(六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「高山植物園」)。園内の花を使った押し花と色えんぴつで作る「ポストカード」▽園内の植物がモチーフの消しゴムはんこで模様をつける「花細トートバッグ」▽園内の植物の葉から葉脈を観察するための「葉脈標本」一の3アイテムの中から、年齢やレベルによって作るアイテムを選ぶことができる。所要時間は1アイテムにつき約30分。1アイテム500円(別途入園料620円、

4歳～小学生310円)。六甲高山植物園 ☎078・891・1247 ◆8月のミントサロン 「六甲ミーツ・アート」芸術散歩2019開催10回目記念展の見どころとお薦めの巡り方」 8月1日19時～20時半、ミントテラス(JR「三ノ宮」駅)。今秋、開催10回目を迎える現代アートの展覧会「六甲ミーツ・アート 芸術散歩」。同事務局長の山川佳乃さん＝写真＝が、六甲山上をハイキング気分ですり、深まる秋の気配を感じながらアートと出会う、五感を刺激する展覧会の見どころやお薦めの楽しみ方、準備の裏話などを紹介する。講演後は講師を囲んでワインとチーズを楽しみながら懇親会も。500円。先着50人。住所、氏名、電話番号、年齢、性別を明記しメール(mintsalon@kobe-np.co.jp)かファクス(078・360・5514)で六甲山大学事務局ミントサロン係へ申し込む。事務局 ☎078・362・2983 ◆真夏の雪まつり 7月14日～9月1日と9月7、8日11時～16時半(7月14日10時半～16時半、8月10～15日は10時半～17時半。7月13日はプレ開催)、六甲山カンツリーハウス・真夏の雪まつり会場(六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「カンツリーハウス」)。六甲山スノーパークの製氷機で作られた100トンの雪の広場で雪あそびが楽しめる＝写真。雪の中からおもちゃや雑貨を探し出す宝さがしゲームや緑日コーナー(1回300円)などがある。自然の傾斜を利用した流しそらめんは7月22日～8月12日と8月17～30日の平日10時半、13時半。各回100人。ホームページから予約する。いずれも別途入園料(620円、4歳～小学生310円)が必要。7月13～15日、8月3日～9月1日の土日・祝日、8月13～16日の計18日間は阪神御影駅、JR住吉駅、

子ども8000円(入園料込み)。小学生以下の子どもを含む親子10組が対象。7月17日17時までにはホームページから申し込む。六甲山カンツリーハウス ☎078・891・0366 ◆夏の六甲山に涼を求めて 8月10日10時、六甲山ビジターセンター集合(六甲ケーブル「六甲山上」駅からバス「記念碑台」)。六甲山上の高低差のない森の中を歩きながら自然観察をする。コースは、ノースロードーダイヤモンドポイントー同センター。弁当、飲み物、雨具、観察用具、虫よけスプレーなど持参。参加費300円。14時半ごろ解散予定。小雨決行。六甲山自然案内人の会の濱田さん ☎090・9881・9353

催しの日程、内容などは変更される場合があります。お出かけ前に主催者にご確認ください。ホームページhttp://653daigaku.com/



「生物多様性」を育み、「人」をつくる 竹中工務店では、「私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます」という「竹中グループCSRビジョン」を2014年に制定しました。 「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、建築・まちづくりを通じ、サステナブル社会実現に貢献するため、取り組むべき課題を抽出するとともに、実施方針やKPI、目標を設定し、CSR活動計画を推進しています。 「地球環境・生物多様性への対応」という課題において、昨年より新たな方策として始動させたのが、「清和台の森づくり」です。 「清和台の森づくり」は、当社の環境方針や生物多様性活動指針を具現化する。竹中生物多様性促進プログラムの一環となる取組みで、「日本の里山」といわれる兵庫県川西市黒川地区に近接する当社の研修所の自然豊かな敷地を利用して行っています。生態系・生物多様性の保全や関連する保有技術の活用等を通じて、従業員に生物多様性に関する気付きを与え、自分ごと化し、事業と生物多様性の関わりを認識・共有し、当社が手掛けるプロジェクトやまちづくり活かししていくことを目的としています。 昨年は活動の拠点となる「フィールドセンター」をオープンし、全国の従業員から参加を募って、兵庫県立人と自然の博物館の支援のもと、体験型「森づくり研修」を実施しました。実際の業務に生かせる知識習得だけでなく、植生調査や伐採実習などの「森づくり」を通じ、社会や地域貢献に展開できるスキルや能力を発掘し、磨くためのプログラムとなっており、広く社会課題を解決できる「次世代リーダー」を育成することも目指しています。 今後も「森づくり研修」の経験者を増やしていくことで、従業員主導による整備・保全活動の実践やステークホルダーとの連携を図り、最終的には「清和台の森」が、生態系・生物多様性保全モデルの実践の場となることを目標に活動を進めていきます。

竹中工務店のCSR活動 「生物多様性」を育み、「人」をつくる 竹中工務店では、「私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます」という「竹中グループCSRビジョン」を2014年に制定しました。 「まちづくり総合エンジニアリング企業」として、建築・まちづくりを通じ、サステナブル社会実現に貢献するため、取り組むべき課題を抽出するとともに、実施方針やKPI、目標を設定し、CSR活動計画を推進しています。 「地球環境・生物多様性への対応」という課題において、昨年より新たな方策として始動させたのが、「清和台の森づくり」です。 「清和台の森づくり」は、当社の環境方針や生物多様性活動指針を具現化する。竹中生物多様性促進プログラムの一環となる取組みで、「日本の里山」といわれる兵庫県川西市黒川地区に近接する当社の研修所の自然豊かな敷地を利用して行っています。生態系・生物多様性の保全や関連する保有技術の活用等を通じて、従業員に生物多様性に関する気付きを与え、自分ごと化し、事業と生物多様性の関わりを認識・共有し、当社が手掛けるプロジェクトやまちづくり活かししていくことを目的としています。 昨年は活動の拠点となる「フィールドセンター」をオープンし、全国の従業員から参加を募って、兵庫県立人と自然の博物館の支援のもと、体験型「森づくり研修」を実施しました。実際の業務に生かせる知識習得だけでなく、植生調査や伐採実習などの「森づくり」を通じ、社会や地域貢献に展開できるスキルや能力を発掘し、磨くためのプログラムとなっており、広く社会課題を解決できる「次世代リーダー」を育成することも目指しています。 今後も「森づくり研修」の経験者を増やしていくことで、従業員主導による整備・保全活動の実践やステークホルダーとの連携を図り、最終的には「清和台の森」が、生態系・生物多様性保全モデルの実践の場となることを目標に活動を進めていきます。